



# Sun Fire™ X2250 サーバー ご使用にあたって

---

Version 1.0

Sun Microsystems, Inc.  
www.sun.com

部品番号 820-5107-10、改訂 A  
2008 年 7 月

本書についてのご意見・ご感想は、<http://www.sun.com/hwdocs/feedback> のフォームを使って弊社までお送りください。

Copyright © 2008 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, California 95054, U.S.A. All rights reserved.

米国 Sun Microsystems, Inc. (以降、米国 Sun Microsystems 社とします) は、本書で説明している製品に搭載された技術の知的所有権を所有しています。この知的所有権には、特に <http://www.sun.com/patents> で公表している 1 つまたは複数の米国特許、米国ならびに他の国における 1 つまたは複数の特許または申請中の特許を含みますが、これらに限定されるものではありません。

このディストリビューションには、サードパーティーの開発した素材が含まれている場合があります。

本製品の一部は、Berkeley BSD systems に由来し、University of California からライセンスを受けています。UNIX は、X/Open Company, Ltd. の米国ならびに他の国における登録商標で、X/Open Company, Ltd. が所有する独占的ライセンス供与権に基づいて、米国 Sun Microsystems 社にライセンス供与されています。

Sun, Sun Microsystems, Sun のロゴマーク、Java, Solaris, Sun Fire, Sun Solve, Sun Service、および SunVTS は、Sun Microsystems, Inc. の米国 およびその他の国における商標または登録商標です。

Microsoft は、Microsoft Corporation またはその関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。Windows は、Microsoft Corporation またはその関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。Intel は、Intel Corporation またはその関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。Adobe のロゴは、Adobe Systems, Incorporated の登録商標です。

CPU の予備品または交換品の使用は、米国の輸出法に準拠して輸出された製品の CPU の修理または 1 対 1 での交換に限り許可されています。米国政府の許可を得ることなく、製品のアップグレード目的で CPU を使用することは、固く禁じられています。

本書は、「現状のまま」の形で提供され、法律により免責が認められない場合を除き、商品性、特定目的への適合性、第三者の権利の非侵害に関する暗黙の保証を含む、いかなる明示的および暗示的な保証も伴わないものとします。

---

Copyright © 2008 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, California 95054, Etats-Unis. Tous droits réservés.

Sun Microsystems, Inc. détient les droits de propriété intellectuelle relatifs à la technologie incorporée dans le produit qui est décrit dans ce document. En particulier, et ce sans limitation, ces droits de propriété intellectuelle peuvent inclure un ou plus des brevets américains listés à l'adresse <http://www.sun.com/patents> et un ou les brevets supplémentaires ou les applications de brevet en attente aux Etats - Unis et dans les autres pays.

Cette distribution peut comprendre des composants développés par des tierces parties.

Des parties de ce produit pourront être dérivées des systèmes Berkeley BSD licenciés par l'Université de Californie. UNIX est une marque déposée aux Etats-Unis et dans d'autres pays et licenciée exclusivement par X/Open Company, Ltd.

Sun, Sun Microsystems, le logo Sun, Java, Solaris, Sun Fire, Sun Solve, Sun Service, et SunVTS sont des marques de fabrique ou des marques déposées de Sun Microsystems, Inc. aux Etats-Unis et dans d'autres pays.

Microsoft sont est marques de fabrique ou des marques déposées de Microsoft Corporation ou de sa filiale aux Etats-Unis et dans d'autres pays. Windows est une marque de fabrique ou une marques déposée de Microsoft Corporation ou de sa filiale aux Etats-Unis et dans d'autres pays. Intel est une marque déposée ou marque déposée d'Intel Corporation ou ses filiales aux Etats-Unis et à d'autres pays. Le logo Adobe est une marque déposée de Adobe Systems, Incorporated.

L'utilisation de pieces detachées ou d'unités centrales de remplacement est limitée aux réparations ou à l'échange standard d'unités centrales pour les produits exportés, conformément à la législation américaine en matière d'exportation. Sauf autorisation par les autorités des Etats-Unis, l'utilisation d'unités centrales pour procéder à des mises à jour de produits est rigoureusement interdite.

LA DOCUMENTATION EST FOURNIE "EN L'ETAT" ET TOUTES AUTRES CONDITIONS, DECLARATIONS ET GARANTIES EXPRESSES OU TACITES SONT FORMELLEMENT EXCLUES, DANS LA MESURE AUTORISEE PAR LA LOI APPLICABLE, Y COMPRIS NOTAMMENT TOUTE GARANTIE IMPLICITE RELATIVE A LA QUALITE MARCHANDE, A L'APTITUDE A UNE UTILISATION PARTICULIERE OU A L'ABSENCE DE CONTREFACON.



リサイクル  
してください



Adobe PostScript

# Sun Fire X2250 サーバー ご使用にあたって

---

本書では、Sun Fire™ X2250 サーバーに関する最新情報と注意事項を説明します。

本書は、次のセクションで構成されています。

- 「一般的な情報」(2 ページ)
- 「Sun Fire X2250 サーバーのツールとドライバの CD」(3 ページ)
- 「ファームウェアの最新のアップデート」(4 ページ)
- 「ハードウェアと BIOS の注意事項」(4 ページ)
- 「Integrated Lights Out Manager の注意事項」(6 ページ)
- 「診断の注意事項」(11 ページ)
- 「オペレーティングシステムの注意事項」(12 ページ)

---

# 一般的な情報

## Sun Fire サーバーのサポート

Sun Fire X2250 サーバーのサポート情報は、次の Web サイトに公開されています。

<http://www.sun.com/servers/x64/x2250/support.xml>

## サポートされているオペレーティングシステム

次に、Sun Fire X2250 サーバーでサポートされているオペレーティングシステムの最低バージョンの一覧を示します。

- Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 4.5 以降 (32 ビット/64 ビット)
- Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 5.0 以降 (32 ビット/64 ビット)
- SUSE Linux Enterprise Server (SLES) 10 SP1 64 ビット
- Solaris 10 5/08 64 ビット
- Windows 2003 (32 ビット版および 64 ビット版)、Advanced および Enterprise Server SP2

## ドキュメント

Sun Fire X2250 サーバーのドキュメントには、次のものがあります。

- *Sun Fire X2250 サーバーご使用の手引き* (820-5097)
- *Sun Fire X2250 サーバー設置マニュアル* (820-5092)
- *Sun Fire X2250 サーバーご使用にあたって* (820-5107)
- *Sun Fire X2250 Server Service Manual (Sun Fire X2250 サーバーサービスマニュアル)* (820-4593)
- *Sun Fire X2250 サーバーオペレーティングシステムインストールガイド* (820-5102)
- *Sun Installation Assistant for Windows and Linux User's Guide (Windows および Linux 用 Sun Installation Assistant ユーザーズガイド)* (820-3357)
- *Sun Fire X2250 サーバー用 Sun ILOM 補足ドキュメント* (820-5112)
- *Sun Integrated Lights Out Manager 2.0 ユーザーズガイド* (820-2698)

- *Sun Fire X2250 Server Safety and Compliance Guide (Sun Fire X2250 サーバー安全とコンプライアンスに関する手引き)* (820-4595)

上記およびその他の Sun Fire サーバー関連ドキュメントは、<http://docs.sun.com> からダウンロードできます。

---

## Sun Fire X2250 サーバーのツールとドライバの CD

Sun Fire X2250 サーバーのツールとドライバの CD には、Sun Fire X2250 サーバー用のソフトウェアアプリケーションとユーティリティが収録されています。このセクションでは、これらのアプリケーションとユーティリティについて説明し、アプリケーションの実行手順が記載されている README テキストファイルの場所を示します。

- **ILOM firmware update (ILOM ファームウェアアップデート):** ILOM ファームウェアのアップデートに使用します。README テキストファイルは、<CD ドライブ>:\remoteflash\Firmware\_Update.txt にあります。
- **ILOM recovery utility (ILOM リカバリユーティリティ):** 破損した ILOM ファームウェアを回復する際に使用します。README テキストファイルは、<CD ドライブ>:\ILOMrecovery\restore.txt にあります。
- **Create a Windows 2003 OS Installation CD (Windows 2003 OS インストール CD の作成):** Reburn CD (必要なすべてのドライバを収録した Windows 2003 CD) の作成に使用します。README テキストファイルは、<CD ドライブ>:\utilities\2003Reburn\readme.txt にあります。

---

**注** – このユーティリティは、Windows ベースのシステムでも、Linux/Solaris ベースのシステムでも実行できます。

---

- **Windows Autorun menu (Windows 自動実行メニュー):** Sun Fire X2250 サーバーの CD/DVD ドライブにツールとドライバの CD を挿入し、メニューを使用して次のいずれかの操作を実行します。
  - Windows サーバー用ドライバのインストール
  - Windows Reburn CD の作成
  - [sun.com](http://sun.com) および関連ドキュメントへのリンク
- **Windows RAID driver installation (Windows RAID ドライバのインストール):** 内蔵ソフトウェア SATA RAID 機能を使用して Windows をインストールする際に使用します。README テキストファイルは、<CD ドライブ>:\drivers\windows\RAID\readme.txt にあります。

- **Solaris/Linux post OS driver update (Solaris/Linux ポスト OS ドライバアップデート)**: 必要に応じて、Intel Ethernet ドライバと AST2000 ドライバをアップデートする際に使用します。README テキストファイルは、次の場所にあります。  
<CD ドライブ>:\drivers\linux\readme.txt  
および  
<CD ドライブ>:\drivers\sx86\readme.txt

---

## ファームウェアの最新のアップデート

Sun Fire X2250 サーバーには、BIOS および Integrated Lights Out Manager (ILOM) ファームウェアの初期リリースが搭載されています。現時点では、ファームウェアのアップデートはありません。

---

## ハードウェアと BIOS の注意事項

次の注意事項は、Sun Fire X2250 サーバーのハードウェアと BIOS に適用されます。

- 「[前面の USB ポート用のケーブルに関する制限事項](#)」 (4 ページ)
- 「[DHCP サーバーのオフライン時に不適切なネットワーク設定が記録される](#)」 (5 ページ)
- 「[IP アドレスの先頭にゼロが含まれていると、無効な IP アドレスエラーが発生する](#)」 (5 ページ)
- 「[BIOS ブート順序の注意事項](#)」 (5 ページ)
- 「[RKVMS の注意事項](#)」 (6 ページ)

## 前面の USB ポート用のケーブルに関する制限事項

前面の USB ポートでは、接続デバイスまでの長さが 3 m のケーブルしか使用できません。

## DHCP サーバーのオフライン時に不適切なネットワーク設定が記録される

DHCP 割り当て IP アドレスを使用するように ILOM が設定されているときに DHCP サーバーがオフラインの場合は、DHCP サーバーがオンラインになるまで待つからリポートを行ってください。リポート命令を発行したり、DHCP から静的 IP アドレスに手動で変更したりすると、ゲートウェイと IP アドレスの不適切な設定が記録されます。DHCP サーバーが復元されると、本来の IP アドレスが DHCP サーバーによって割り当てられます。

### 対処方法

DHCP が復元されるまでサーバーをリポートしないでください。ILOM に緊急にアクセスする必要がある場合は、端末をシリアルコンソールのネットワーク管理ポートに接続し、手動で静的 IP アドレスを割り当ててください。

## IP アドレスの先頭にゼロが含まれていると、無効な IP アドレスエラーが発生する

4 つの IP アドレスオクテットのいずれかの先頭にゼロが含まれている場合、ILOM は無効な IP アドレスエラーを報告します。たとえば、10.29.54.02 または 10.029.54.2 と入力すると、先頭のゼロが原因でエラーが発生します。

### 対処方法

IP アドレスの先頭には、ゼロを使用しないでください。この問題は、ファームウェアの今後のリリースで解決される予定です。

## BIOS ブート順序の注意事項

USB デバイス (フラッシュ、HDD、FDD、CD ROM など) をシステムに接続した場合、これらのデバイスには低位のブート優先順位が割り当てられます。たとえば、USB HDD は HDD として認識されますが、ブート優先順位は内蔵の 2 台のデバイスに続く第 3 位と見なされます。

### 対処方法

新たに接続した USB デバイスからシステムをブートできるようにするには、一時的にブート順序を変更する必要があります。この問題は、BIOS の今後のリリースで解決される予定です。

## RKVMS の注意事項

仮想 CD-ROM を有効にしたときに、仮想 CD がブートリストに表示されません。

対処方法

1. 仮想 CD-ROM をマウントし、システムをリブートします。
2. システムのブート時に F2 キーを押してシステム BIOS に入ります。
3. ブートリストに移動し、CD-ROM デバイスリストにアクセスします。
4. ブートリストで、「AMI Virtual CD/DVD (AMI 仮想 CD/DVD)」を先頭の項目に設定します。  
これで、仮想 CD が BBS リストに表示されるため、仮想 CD からブートできるようになります。

この問題は、BIOS の今後のリリースで解決される予定です。

---

## Integrated Lights Out Manager の注意事項

次の注意事項は、Sun Fire X2250 サーバーを Integrated Lights Out Manager (ILOM) を使用して管理している場合に適用されます。

- 「サポートされている最低バージョンのブラウザ」(7 ページ)
- 「セッションが早期にタイムアウトする」(7 ページ)
- 「Solaris システムからリモート CD-ROM をマウントする手順」(7 ページ)
- 「メモリサイズの不一致に関するイベントが生成されない」(8 ページ)
- 「位置特定 LED の値を変更できない」(8 ページ)
- 「パスワードの文字数が制限を超えても警告が生成されない」(9 ページ)
- 「Pc-Check 診断ツールが手動モードで動作しない」(9 ページ)
- 「KVMS 認証機能がリモート認証メカニズムと連携しない」(9 ページ)
- 「Solaris リモートコンソールセッションに Java プラグインが必要」(10 ページ)

ILOM の詳細は、<http://docs.sun.com> の『Sun Integrated Lights Out Manager ユーザーガイド』(820-2698) を参照してください。

## サポートされている最低バージョンのブラウザ

表 1 に、Solaris、Linux、Windows の各オペレーティングシステムで、Sun Fire X2250 サーバー用の Lights Out Manager (ILOM) Web インタフェースを実行する際にサポートされるブラウザの最低バージョンを示します。

表 1 ILOM でサポートされるブラウザ

	Solaris x86	RHEL 32 ビット版	RHEL 64 ビット版	SLES 32 ビット版	SLES 64 ビット版	Windows
Mozilla	1.7	1.7.12	1.7.13	1.7.8	1.7.13	N/A
Firefox	1.5.0.4	1.0.7	1.5.0.4	1.5.0.4	1.5.0.4	1.5.0.4
Internet Explorer	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	6

## セッションが早期にタイムアウトする

ILOM Web インタフェースで「Session Timeout (セッションのタイムアウト時間)」を 3 時間に設定した場合、セッションは常に 3 時間より前にタイムアウトします。

対処方法: なし。

この問題は、ILOM ファームウェアの今後のリリースで解決される予定です。

## Solaris システムからリモート CD-ROM をマウントする手順

Solaris システムから Java Remote Console (RKVMS) セッションを開始した場合、CD が正しくマウントされていても、「Mount CD ROM (CD ROM のマウント)」オブジェクトに CD-ROM ドライブが表示されません。

対処方法

デフォルトでは、常に `volmgt` が有効になります。Java Remote Console (RKVMS) を使用して CD-ROM/フロッピーディスクのリダイレクトを開始する前に、`volmgt` を無効にする必要があります。次の手順を実行します。

1. volmgt を無効にします。次のように入力します。  
> `>/etc/init.d/volmgt stop`
2. Java Remote Console (RKVMS) を起動します。
3. RKVMS で動作している Java プロセッサに root 権限を割り当てます。次のように入力します。  
> `>ppriv -s +file_dac_read `pgrep java`;`
4. Solaris デスクトップの CD-ROM ドライブにブート可能 CD を挿入します。
5. Java Remote Console の「cdrom」メニュー項目をクリックして、CD-ROM のリダイレクトを開始します。  
CD-ROM ドライブのパスが表示されます。

## メモリサイズの不一致に関するイベントが生成されない

サイズの異なる DIMM が同じブランチに存在していても、サービスプロセッサ (SP) ログや BIOS BMC イベントログでイベントが生成されません。

対処方法: なし。

この問題は、ILOM ファームウェアの今後のリリースで解決される予定です。

## 位置特定 LED の値を変更できない

位置特定 LED は、Web インタフェースを使用して異なる値 (高速点滅など) に設定できません。たとえば、次の手順を実行しても位置特定 LED の設定は変更されません。

1. 管理者として ILOM Web インタフェースにログインします。
2. 「System Monitoring (システムの管理)」の「Indicators (インジケータ)」タブをクリックします。
3. 「/SYS/LOCATE」を選択します。
4. プルダウンメニューで、「Set LED to Fast Blink (LED を高速点滅に設定する)」を選択します。  
確認メッセージが表示されます。
5. 「OK」をクリックして操作を確認します。

対処方法: なし。

この問題は、ILOM ファームウェアの今後のリリースで解決される予定です。

## パスワードの文字数が制限を超えても警告が生成されない

ILOM Web インタフェースの使用時に文字数が 17 文字以上のパスワードを使用してもエラーや警告が生成されません。

対処方法: なし。

この問題は、ILOM ファームウェアの今後のリリースで解決される予定です。

## Pc-Check 診断ツールが手動モードで動作しない

Pc-Check 診断ツールは、手動で動作するように設定 (/SP/diag を manual に設定)したときに動作しません。これは、仮想フロッピーデバイスが BIOS 起動デバイスリストの一番最後に表示されていることが原因です。

対処方法

1. 端末ウィンドウを開きます。
2. 次のコマンドを入力して、仮想フロッピーデバイスを一次起動デバイスとして設定します。

```
ipmitool -H localhost -U root -P changeme chassis bootdev floppy
```

これで、Pc-Check ツールを手動モードで実行できるようになります。

## KVMS 認証機能がりモート認証メカニズムと連携しない

RADIUS、LDAP、Active Directory などのいずれのリモートユーザー認証メカニズムを使用しても KVMS セッションのユーザー認証を実行できません。

対処方法: なし。

この問題は、ILOM ファームウェアの今後のリリースで解決される予定です。

# Solaris リモートコンソールセッションに Java プラグインが必要

Solaris システムで ILOM リモートコンソールセッションを開始すると、`javaRKVM.jnlp` ファイルに関する指示を求めるメッセージが表示されることがあります。その場合、次の 2 つのオプションがあります。

- **root** としてログインしている場合は、デフォルトのアプリケーションを使用してこのファイルを開きます。

または

- **root** ではなくユーザーとしてログインしている場合は、次の手順を実行します。

1. ファイルを保存するオプションを選択します。

2. `javaRKVM.jnlp` ファイルをダウンロードして手動で実行します。

ダウンロードマネージャにより、このファイルの場所が表示されます。

3. 端末ウィンドウで次のコマンドを入力して、`javaws` アプリケーションの場所を検索します。

```
% which javaws
```

4. `javaRKVM.jnlp` ファイルを `/tmp` ディレクトリに移動します。次のように入力します。

```
% mv /javaRKVM.JNLP の場所/javaRKVM.JNLP /tmp
```

`javaRKVM.JNLP` の場所 には、`javaRKVM.JNLP` が保存されているディレクトリを指定します。

5. 端末ウィンドウから次のコマンドを実行します。

```
% /javaws の場所/javaws /tmp/javaRKVM.JNLP
```

`javaws` の場所 には、`javaws` が保存されているディレクトリを指定します。

例:

`javaws` アプリケーションを `/usr/bin` ディレクトリから実行する場合、次のように入力します。

```
% /usr/bin/javaws /tmp/javaRKVM.JNLP
```

このコマンドにより、リモートコンソールセッションが開始されます。

リモートコンソールウィンドウを閉じると、`/tmp/javaRKVM.jnlp` が削除されます。

---

## 診断の注意事項

次の注意事項は、Pc-Check 診断ソフトウェアバージョン 6.20 に適用されます。

- [「ILOM ファームウェアに埋め込まれている Pc-Check の実行手順」](#) (11 ページ)

## ILOM ファームウェアに埋め込まれている Pc-Check の実行手順

次の手順を実行します。

1. ILOM Web インタフェースにログインします。
2. 「Remote Control (リモートコントロール)」、「Diagnostics (診断)」タブの順にクリックし、Pc-Check のモードを設定します。
  - 基本の診断を実行するには、「Enabled (有効)」を選択します。この診断には、約 3 分かかります。
  - 詳細な診断を実行するには、「Extended (拡張)」を選択します。この診断には、約 30 分かかります。
  - 診断を手動モードで実行するには、「Manual (手動)」を選択します。このオプションを選択すると、「Pc-Check」メニューが表示されます。
3. サーバーの電源を投入または再投入して Pc-Check を起動させます。

Pc-Check モードを無効に設定し直すと、次の電源投入イベントまたは電源再投入イベントのあとでその変更が有効になります。たとえば、ILOM を使用して Pc-Check のステータスを有効に設定し、そのモードが動作しているときにステータスを無効に設定した場合、次の電源投入/再投入イベントが発生するまで、ILOM は Pc-Check を終了したり、バックグラウンドスクリプトを停止したりしません。Control-Alt-Delete などのローカルのリセットは、ILOM では認識されないため、ILOM は、リセットが発生したことを確認できません。

---

# オペレーティングシステムの注意事項

このセクションでは、オペレーティングシステムに関する次の注意事項について説明します。

- 「Solaris の注意事項」 (12 ページ)
  - 「Solaris のインストール後に一部の KVM スイッチが同期しない」 (12 ページ)
- 「Linux の注意事項」 (13 ページ)
  - 「Red Hat 5.1 で報告される USB デバイスエラー」 (13 ページ)
  - 「Sun Installation Assistant の使用時または OS の手動インストール時に Intel AHCI/RAID ドライバが機能しない」 (14 ページ)
- 「Windows の注意事項」 (14 ページ)
  - 「RIS を使用して IDE ドライバをインストールできない」 (14 ページ)

サポートされているオペレーティングシステムの最低バージョンについては、「サポートされているオペレーティングシステム」 (2 ページ) を参照してください。

## Solaris の注意事項

---

**注** – Sun Fire X2250 サーバーには、Solaris OS がプリインストールされています。この OS は、デフォルトでシリアルコンソール接続 (ttya) を介してリダイレクトされるように設定されています。この OS をローカルのモニタとキーボードにリダイレクトするには、ブート時に GRUB メニューを使用して VGA オプションを選択します。

---

## Solaris のインストール後に一部の KVM スイッチが同期しない

ラックにマウントされ、KVM スイッチに接続されている Sun Fire X2250 サーバーに Solaris 10 5/08 をインストールした場合、Xserver が OS へのログインを開始したときにモニタが同期しなくなることがあります。

この問題には、次の 3 つの対処方法があります。

- Solaris をテキストモードでインストールしてから、次の操作を行います。
  - a. ツールとドライバの CD から `install.sh` スクリプトを実行します。
  - b. サーバーをリブートします。

`install.sh` を実行すると、アップデートされた AST2000 VGA ドライバがインストールされるため、問題が解決します。Solaris 用の `install.sh` スクリプトの詳細な実行手順は、『Sun Fire X2250 サーバーオペレーティングシステムインストールガイド』(820-5102) を参照してください。
- Integrated Lights Out Manager (ILOM) Web インタフェースで KVMs over IP を使用します。

KVMs over IP の詳細は、『Sun Integrated Lights Out Manager ユーザーガイド』(820-2698) を参照してください。
- Solaris をグラフィカルユーザーインタフェース (GUI) モードでインストールしてから、次の手順を実行します。
  - a. 開始する前に `failsafe` をブートするか、`Xserver` を停止します。
  - b. ツールとドライバの CD から `install.sh` スクリプトを実行します。

Solaris 用の `install.sh` スクリプトの詳細な実行手順は、『Sun Fire X2250 サーバーオペレーティングシステムインストールガイド』(820-5102) を参照してください。

## Linux の注意事項

次の注意事項は、サポートされている RedHat または SUSE オペレーティングシステムを実行している Sun Fire X2250 サーバーに適用されます。

### Red Hat 5.1 で報告される USB デバイスエラー

Sun Fire X2250 サーバー背面の USB ポートに USB デバイスを接続すると、次のエラーメッセージが生成されます。

```
usb 1-2; device not accepting address 2, error -71
```

これは、Red Hat Linux の問題です。

#### 対処方法

現在のインストールで、新しい `initrd.img` ファイルを手動で作成する必要があります。

1. 端末ウィンドウを開きます。
2. /boot ディレクトリに移動します。次のように入力します。  
`cd /boot`
3. 次のコマンドを入力して、initrd.img ファイルの名前を変更します。  
`mv initrd-<バージョン>.img initrd-<バージョン>.img.save`
4. 次のコマンドの入力して、新しい initrd.img ファイルを作成します。  
`mkinitrd initrd-<バージョン>.img <uname - r>`
5. 変更を有効にするためにサーバーを再起動します。

## Sun Installation Assistant の使用時または OS の手動インストール時に Intel AHCI/RAID ドライバが機能しない

Sun Installation Assistant (SIA) または Red Hat/SUSE DVD を使用して Sun Fire X2250 サーバーに Linux をインストールするときは、HDD 設定モードが IDE に設定されていることを確認してください。Intel ESB2 チップセット用の AHCI ドライバと RAID ドライバは正しく機能しません。この問題は、Linux OS プロバイダと Intel により対処されています。

## Windows の注意事項

次の注意事項は、サポートされている Microsoft Windows オペレーティングシステムを実行している Sun Fire X2250 サーバーに適用されます。

### RIS を使用して IDE ドライバをインストールできない

Sun Fire X2250 サーバーの PXE 環境では、IDE コントローラが正しく列挙されません。AHCI モードおよび RAID モードでの RIS は問題なく機能します。

対処方法: なし。

この問題は、BIOS の今後のリリースで解決される予定です。